

リスク認知調査—全国 2,000 人の環境問題・社会問題への関心度・怖さ 「年金破綻」への不安高まる 急上昇リスクは「耐性病原菌・ウイルス」

ノルド社会環境研究所（本社：東京都中央区、代表取締役：久米谷弘光）は、環境問題等のリスクコミュニケーションや政策広報のための基礎資料とするため、2007年、2008年に引き続き、全国の20歳以上の男女個人2,000人（有効回収）を対象にリスク認知調査を実施しました。

本調査では、計32の環境問題、社会問題に対する「関心度」と「怖さ」をそれぞれ5段階評価でたずね、平均スコア（※）を算出しています。

※平均スコア： 「非常に関心がある／非常に怖い」5点、「かなり関心がある／かなり怖い」4点、「やや関心がある／やや怖い」3点、「あまり関心がない／あまり怖くない」2点、「関心がない／怖くない」1点として得点化した関心度／怖さを示す平均値。

● 最大の関心事は「年金破綻」 経済問題が上位を占める

今年、関心度の最も高い問題は「年金破綻」となっており、全体の93%にのぼる人が「関心がある」と回答しています（図1）。以下、「経済格差の拡大」「国や自治体の財政破綻」「食料自給率の低下」「耐性病原菌・ウイルス」の順に続いています。

「年金破綻」は3年連続での首位となっています（図2）。また、「経済格差の拡大」「国や自治体の財政破綻」がそれぞれ順位を上げ、経済問題が関心度トップ3を占める結果となりました。

今年、関心度5位へと大きく順位を上げたのは「耐性病原菌・ウイルス」です。その背景には、新型インフルエンザの流行と世界的な感染拡大があることがうかがえます。

● 怖さの第3位に「耐性病原菌・ウイルス」が浮上

今年、怖さで1位になったのは、関心度でも1位だった「年金破綻」です（図3、図4）。年金制度に対する国民の不安は、深刻さを増しているといえるでしょう。

次に多いのが「戦争・テロ」で、以下、「耐性病原菌・ウイルス」「原子力施設の事故」「地震や風水害などの自然災害」が続いています。「耐性病原菌・ウイルス」は昨年の6位から3位に順位を上げています。

また、関心度で2位と3位にランクしている「経済格差の拡大」「国や自治体の財政破綻」は、怖さでも昨年より順位を大きく上げる結果となりました（それぞれ、14位から9位、12位から6位）。

● 怖いのに関心は高くない「戦争・テロ」「原子力施設の事故」

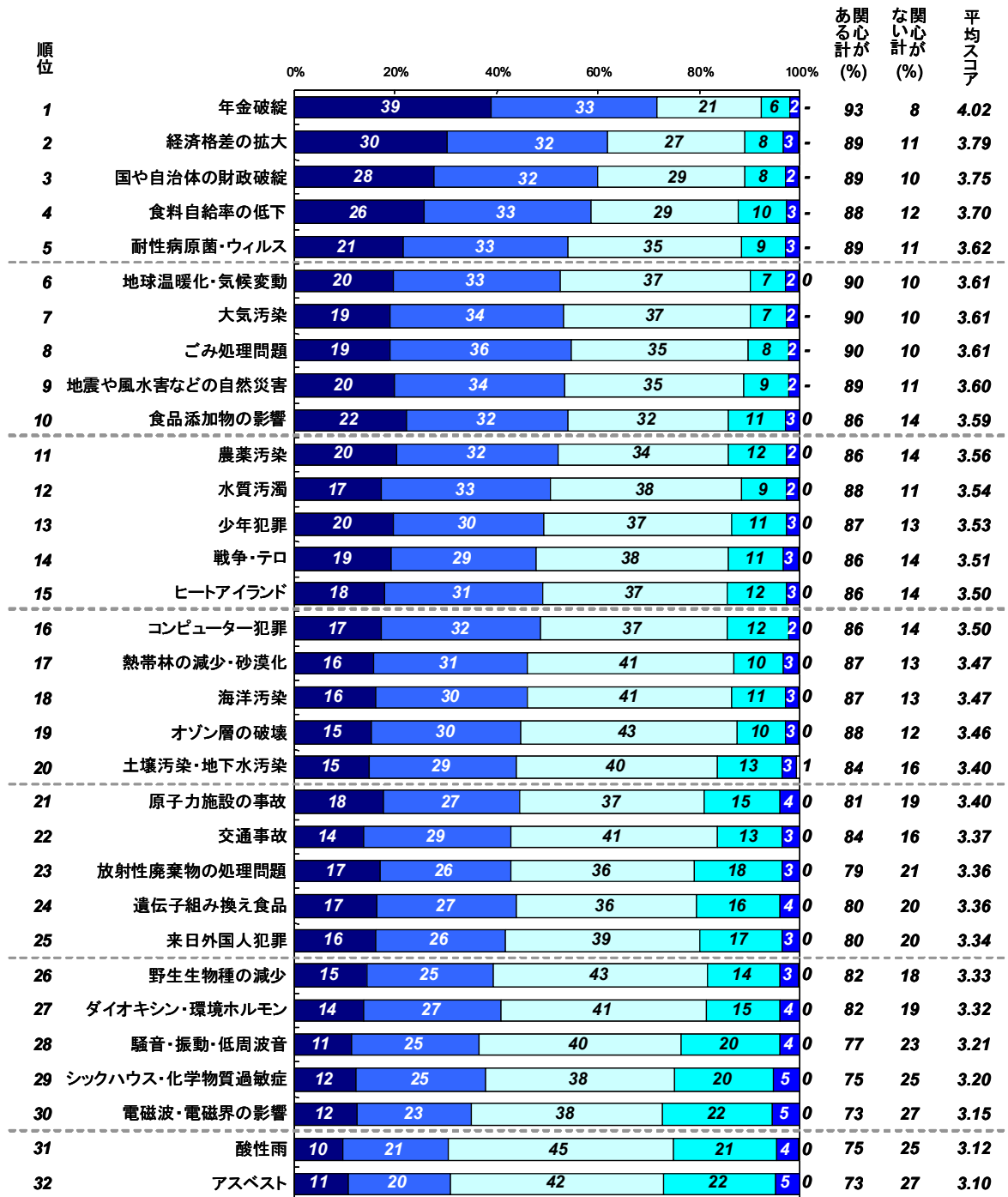
関心度と怖さの関係をみると、「戦争・テロ」「原子力施設の事故」「放射性廃棄物の処理問題」といった項目は、関心度よりも怖さが高くなっています（図5）。逆に、怖さよりも関心度のほうが高くなっているのが「ごみ処理問題」です。

関心度・怖さともに高いのは、「年金破綻」「国や自治体の財政破綻」「経済格差の拡大」などの社会・経済リスク、また「耐性病原菌・ウイルス」「地震や風水害などの自然災害」などの環境・健康リスクとなっています。

このリリースに関するお問い合わせ先：株式会社ノルド社会環境研究所
東京都中央区京橋1-9-10 フォレストタワー 電話 03-5524-7333 担当：十森
ホームページ <http://www.nord-ise.com/>

図 1: 環境問題や社会問題への関心度
2009年の調査結果 [N=2,000]

問: 次にあげるような環境問題や社会問題に対してどの程度関心を持っていますか。



非常に関心がある(+5)
 かなり関心がある(+4)
 やや関心がある(+3)
 あまり関心がない(+2)
 関心がない(+1)
 無回答(-)
 ()内は平均スコア算出に用いた値

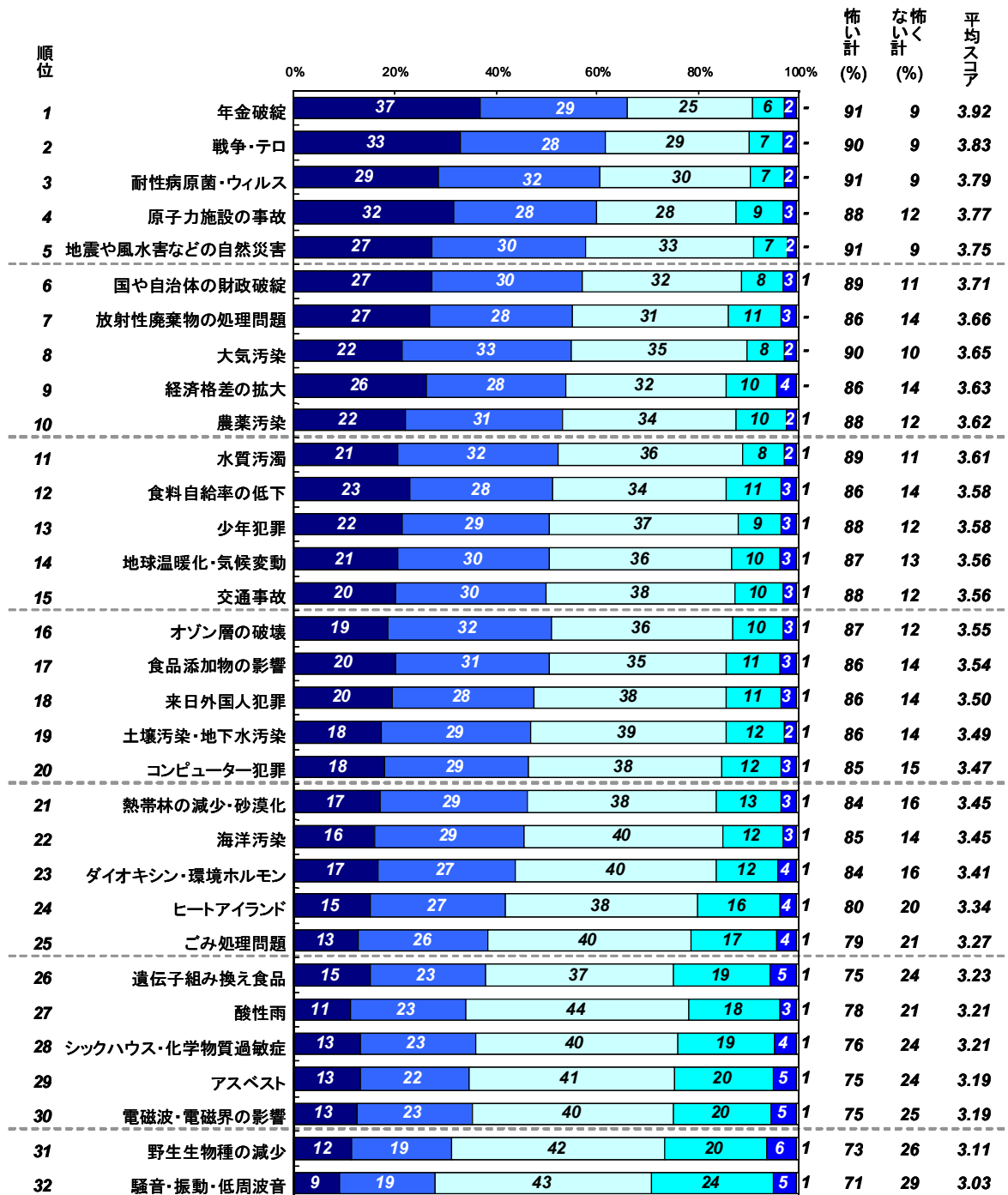
関心がある計 = 「非常に関心がある」 + 「かなり関心がある」 + 「やや関心がある」
 関心がない計 = 「あまり関心がない」 + 「関心がない」

図 2: 環境問題や社会問題への関心度
2007年～2009年の順位・平均スコアの変化

順位	2007年	平均スコア	順位	2008年	平均スコア	順位	2009年	平均スコア
1	年金破綻	4.13	1	年金破綻	3.99	1	年金破綻	4.02
2	地球温暖化・気候変動	3.90	2	食料自給率の低下	3.88	2	経済格差の拡大	3.79
3	経済格差の拡大	3.85	3	経済格差の拡大	3.86	3	国や自治体の財政破綻	3.75
4	国や自治体の財政破綻	3.82	4	地球温暖化・気候変動	3.82	4	食料自給率の低下	3.70
5	大気汚染	3.79	5	地震や風水害などの自然災害	3.79	5	耐性病原菌・ウイルス	3.62
6	食品添加物の影響	3.78	6	国や自治体の財政破綻	3.78	6	地球温暖化・気候変動	3.61
7	少年犯罪	3.77	7	大気汚染	3.76	7	大気汚染	3.61
8	ごみ処理問題	3.75	8	ごみ処理問題	3.74	8	ごみ処理問題	3.61
9	地震や風水害などの自然災害	3.75	9	食品添加物の影響	3.74	9	地震や風水害などの自然災害	3.60
10	オゾン層の破壊	3.72	10	農業汚染	3.70	10	食品添加物の影響	3.59
11	水質汚濁	3.70	11	少年犯罪	3.70	11	農業汚染	3.56
12	農業汚染	3.70	12	水質汚濁	3.66	12	水質汚濁	3.54
13	熱帯林の減少・砂漠化	3.68	13	熱帯林の減少・砂漠化	3.65	13	少年犯罪	3.53
14	コンピューター犯罪	3.68	14	ヒートアイランド	3.62	14	戦争・テロ	3.51
15	戦争・テロ	3.66	15	コンピューター犯罪	3.61	15	ヒートアイランド	3.50
16	海洋汚染	3.63	16	オゾン層の破壊	3.60	16	コンピューター犯罪	3.50
17	ヒートアイランド	3.63	17	海洋汚染	3.60	17	熱帯林の減少・砂漠化	3.47
18	原子力施設の事故	3.58	18	耐性病原菌・ウイルス	3.59	18	海洋汚染	3.47
19	土壌汚染・地下水汚染	3.57	19	戦争・テロ	3.56	19	オゾン層の破壊	3.46
20	食料自給率の低下	3.57	20	土壌汚染・地下水汚染	3.53	20	土壌汚染・地下水汚染	3.40
21	来日外国人犯罪	3.57	21	放射性廃棄物の処理問題	3.49	21	原子力施設の事故	3.40
22	放射性廃棄物の処理問題	3.56	22	原子力施設の事故	3.48	22	交通事故	3.37
23	耐性病原菌・ウイルス	3.56	23	野生生物種の減少	3.47	23	放射性廃棄物の処理問題	3.36
24	ダイオキシン・環境ホルモン	3.53	24	遺伝子組換え食品	3.45	24	遺伝子組み換え食品	3.36
25	交通事故	3.49	25	ダイオキシン・環境ホルモン	3.44	25	来日外国人犯罪	3.34
26	野生生物種の減少	3.47	26	来日外国人犯罪	3.44	26	野生生物種の減少	3.33
27	遺伝子組換え食品	3.43	27	交通事故	3.37	27	ダイオキシン・環境ホルモン	3.32
28	酸性雨	3.37	28	酸性雨	3.31	28	騒音・振動・低周波音	3.21
29	シックハウス・化学物質過敏症	3.32	29	騒音・振動・低周波音	3.26	29	シックハウス・化学物質過敏症	3.20
30	電磁波・電磁界の影響	3.32	30	シックハウス・化学物質過敏症	3.24	30	電磁波・電磁界の影響	3.15
31	騒音・振動・低周波音	3.30	31	電磁波・電磁界の影響	3.24	31	酸性雨	3.12
32	アスベスト	3.27	32	アスベスト	3.19	32	アスベスト	3.10

図 3: 環境問題や社会問題への怖さ
2009年の調査結果 [N=2,000]

問: 次にあげるような環境問題や社会問題に対してどの程度怖いと感じていますか



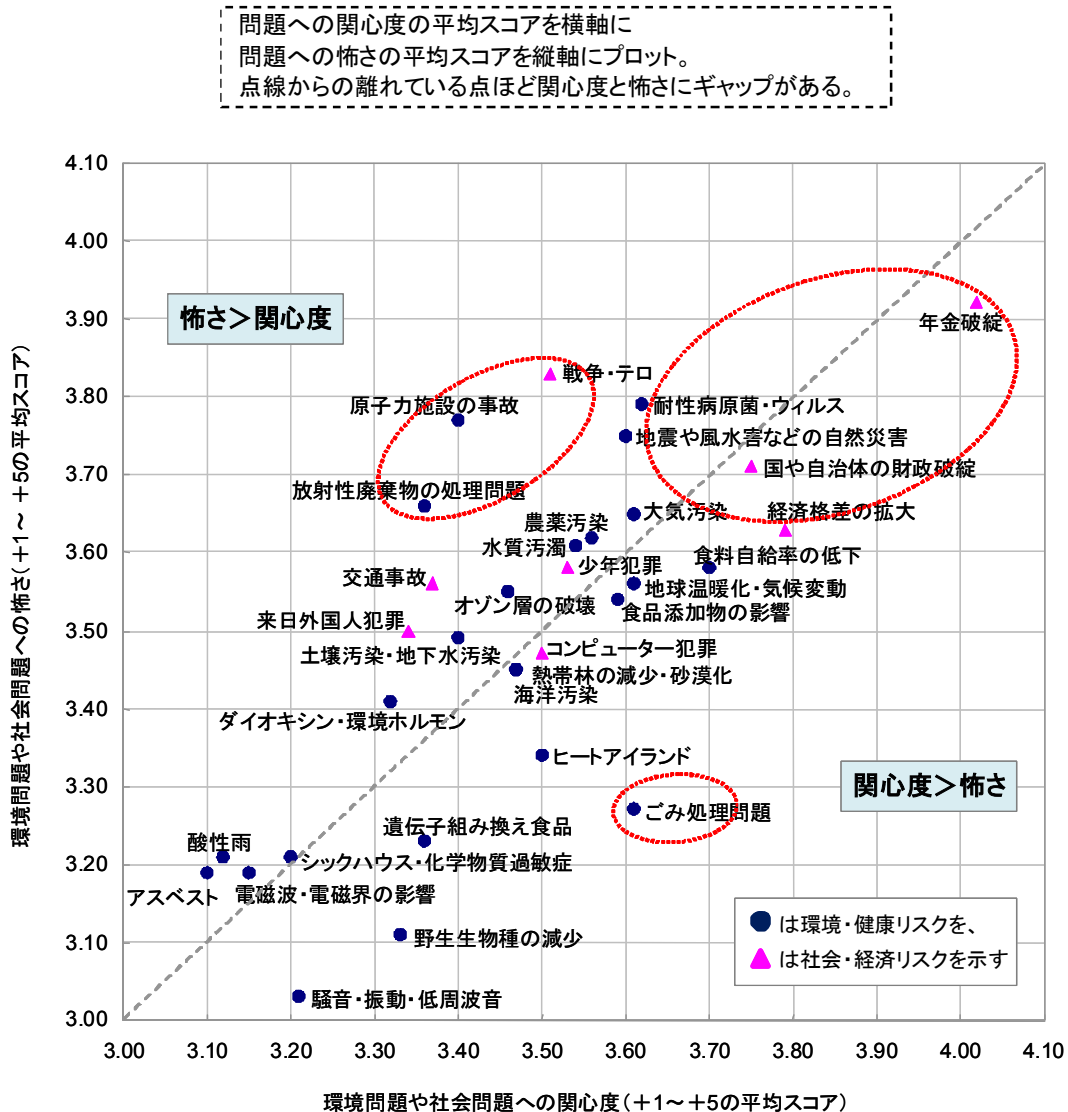
■ 非常に怖い(+5) ■ かなり怖い(+4) □ やや怖い(+3)
■ あまり怖くない(+2) ■ 怖くない(+1) □ 無回答(-)
 ()内は平均スコア算出に用いた値

怖い計 = 「非常に怖い」 + 「かなり怖い」 + 「やや怖い」
 怖くない計 = 「あまり怖くない」 + 「怖くない」

図 4: 環境問題や社会問題への怖さ
2007年～2009年の順位・平均スコアの変化

順位	2007年	平均スコア	順位	2008年	平均スコア	順位	2009年	平均スコア
1	戦争・テロ	4.00	1	地震や風水害などの自然災害	3.99	1	年金破綻	3.92
2	原子力施設の事故	3.99	2	原子力施設の事故	3.92	2	戦争・テロ	3.83
3	年金破綻	3.96	3	年金破綻	3.90	3	耐性病原菌・ウイルス	3.79
4	地震や風水害などの自然災害	3.93	4	戦争・テロ	3.89	4	原子力施設の事故	3.77
5	地球温暖化・気候変動	3.90	5	地球温暖化・気候変動	3.85	5	地震や風水害などの自然災害	3.75
6	放射性廃棄物の処理問題	3.86	6	耐性病原菌・ウイルス	3.84	6	国や自治体の財政破綻	3.71
7	大気汚染	3.83	7	食糧自給率の低下	3.83	7	放射性廃棄物の処理問題	3.66
8	耐性病原菌・ウイルス	3.81	8	大気汚染	3.81	8	大気汚染	3.65
9	オゾン層の破壊	3.80	9	放射性廃棄物の処理問題	3.78	9	経済格差の拡大	3.63
10	水質汚濁	3.79	10	水質汚濁	3.77	10	農業汚染	3.62
11	少年犯罪	3.78	11	農業汚染	3.77	11	水質汚濁	3.61
12	農業汚染	3.77	12	国や自治体の財政破綻	3.75	12	食料自給率の低下	3.58
13	食品添加物の影響	3.75	13	少年犯罪	3.74	13	少年犯罪	3.58
14	国や自治体の財政破綻	3.75	14	経済格差の拡大	3.73	14	地球温暖化・気候変動	3.56
15	来日外国人犯罪	3.71	15	食品添加物の影響	3.72	15	交通事故	3.56
16	土壌汚染・地下水汚染	3.68	16	オゾン層の破壊	3.71	16	オゾン層の破壊	3.55
17	交通事故	3.68	17	土壌汚染・地下水汚染	3.67	17	食品添加物の影響	3.54
18	経済格差の拡大	3.66	18	熱帯林の減少・砂漠化	3.63	18	来日外国人犯罪	3.50
19	熱帯林の減少・砂漠化	3.65	19	海洋汚染	3.63	19	土壌汚染・地下水汚染	3.49
20	ダイオキシン・環境ホルモン	3.65	20	来日外国人犯罪	3.61	20	コンピューター犯罪	3.47
21	海洋汚染	3.63	21	交通事故	3.59	21	熱帯林の減少・砂漠化	3.45
22	コンピューター犯罪	3.61	22	ダイオキシン・環境ホルモン	3.57	22	海洋汚染	3.45
23	食料自給率の低下	3.54	23	コンピューター犯罪	3.56	23	ダイオキシン・環境ホルモン	3.41
24	ヒートアイランド	3.50	24	ヒートアイランド	3.50	24	ヒートアイランド	3.34
25	酸性雨	3.42	25	ごみ処理問題	3.45	25	ごみ処理問題	3.27
26	ごみ処理問題	3.42	26	遺伝子組み換え食品	3.40	26	遺伝子組み換え食品	3.23
27	アスベスト	3.38	27	酸性雨	3.39	27	酸性雨	3.21
28	遺伝子組み換え食品	3.38	28	シックハウス・化学物質過敏症	3.29	28	シックハウス・化学物質過敏症	3.21
29	シックハウス・化学物質過敏症	3.34	29	アスベスト	3.29	29	アスベスト	3.19
30	電磁波・電磁界の影響	3.34	30	電磁波・電磁界の影響	3.26	30	電磁波・電磁界の影響	3.19
31	野生生物種の減少	3.24	31	野生生物種の減少	3.25	31	野生生物種の減少	3.11
32	騒音・振動・低周波音	3.15	32	騒音・振動・低周波音	3.11	32	騒音・振動・低周波音	3.03

図 5: 環境問題や社会問題への関心度×怖さ
2009 年調査結果 [N=2,000]



本調査の概要

本調査は、ノルド社会環境研究所の自主調査「社会環境に関するアンケート調査」の一環として行いました。その概要は以下の通りです。

調査対象：全国の 20 歳～59 歳の男女個人(インターネットユーザー)

調査方法：Web アンケート

サンプル抽出方法：生活者モニターからの無作為抽出 (性・年齢・地域別の人口比に応じて抽出)

有効回収集計対象サンプル数：2000 サンプル

調査時期：2009 年 7 月 10 日～17 日

※2007 年、2008 年調査は、同様の方法で 2007 年 7 月、2008 年 7 月にそれぞれ実施しました。

株式会社ノルド社会環境研究所

“ピープルズシンクタンク”を理念とする独立系の民間調査研究機関。社会環境政策、地域計画、マーケティング、CSR、広報・コミュニケーション分野の調査研究及びコンサルティングを行なっている。

このリリースに関するお問い合わせ先：株式会社ノルド社会環境研究所
東京都中央区京橋 1-9-10 フォレストタワー 電話 03-5524-7333 担当:十森
ホームページ <http://www.nord-ise.com/>